

国立公園大山に子どもたちの歓声

～鳥取学生赤十字奉仕団米子分団が大山に子どもたちを招待～

鳥取学生赤十字奉仕団（団員数 63 名、委員長 新居陽太）が 6 月 16 日（日）、森の国大山フィールドアスレチック（大山町赤松 634）において、米子市内の児童養護施設の入所児童 23 名を招待し、「大山アスレチック 2013」を開催しました。

企画・運営を担当したのは、結成 11 年目を迎えた鳥取学生赤十字奉仕団米子分団（分団員数 28 名、代表 星野春菜）で、日頃は米子市内の児童養護施設訪問（学習支援）を行い、クリスマス会などの行事も行っています。

大山アスレチックも本年で 10 年目を迎え、恒例の行事として定着させていただいています。当日、朝方まで続いた雨もやみ、梅雨空を跳ね返す子どもたちの歓声が国立公園大山に響きわたり、曇天で始まった行事もお昼前から青空も覗く絶好の天候となりました。午前中は、団員の考えたゲームや緑一面の芝生の広場での遊びを行い、午後は、様々なアスレチックに子どもたちは目を輝かせながら取り組んでいました。

参加した子どもたちからは、「楽しかったよ。」「ありがとう。」など、口々にお礼の言葉を団員のお兄さん・お姉さんに伝えていました。行事に参加した団員は「みんなが楽しそうに 1 日を過ごしてくれたことに安堵とよろこびで一杯です。」「子どもたちとともに沢山の楽しい思い出を作ることができました。」「子どもたちや奉仕団の仲間から学ぶことがたくさんあった。」など、行事を終えた達成感を確かめあっていました。

大山アスレチック事業の実施において、準備や当日関わってくださった施設の先生方、協力してくださった皆様、本当にありがとうございます。

記事：鳥取学生赤十字奉仕団

【プライバシー保護のため画質を落としています。ご了承ください。】

